2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	医科分子生物学特論Ⅰ・Ⅲ	栗林 太

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）医療への応用力を高めるために，分子生物学的な考え方や手技を獲得する。
（2）遺伝子診断法を習得するため，分子生物学を理解する。
（3）ゲノム変異と修復機構を理解して，遺伝子解析を遂行できる能力を修得する。
（4）遺伝子治療の基本を理解するために，先天性免疫不全症の全般を考察する。

授業到達目標

（1）tRNA や siRNA を具体的に説明できる。
（2）正常と患者由来組織からゲノムを抽出し遺伝子解析を実施する。
（3）遺伝子異常に対する修復機構の具体例を３つ以上説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	金	15:00-16:30	岡本 秀一郎	講義	[抄読会]	生化学の英文論文を紹介し，それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟６階カンファレンス室 12]
2	隔週	金	15:00-16:30	山内 明	講義	[抄読会]	免疫学の英文論文を紹介し，それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟６階カンファレンス室 12]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） １年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） １年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） １年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） １年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）毎月，提出課題（レポート）に関するフィードバック講義と討論を行う。
（2） ２月には全てのレポートの振返り講義と総括を行う。レポートは返却する。

教科書

ISBN-9784260008013, 標準生化学, 藤田道也執筆, 医学書院, 2012

参考書

ISBN-9784621080238, イラストレイテッド生化学, Pamela C.Champe, Richard A.Harvey, Denise R.Ferrier [著] ; 浅井将 [ほか訳], 丸善, 2008

準備学習（予習・復習等）

（1）あらかじめ直接の紹介論文を１時間、更には関係諸論文を各自検索調査を行い、それらも１時間以上読んでから講義に参加すること。
（2）講義中に出てくる疑問点を中心に、１時間程度の復習をしてください。
（3）予習と復習の有無を講義中に確認します。具体的には，各自の課題発見能力を自学自修により高めることが必要です。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業科目では，実験生物学における問題の発見能力と解決方法を学びます。
その能力は学位認定のために必要です。

注意事項・メッセージ

（1）大きな日程変更はありませんが，担当者や日程が変更する可能性があります。
（2）学生の論文紹介に関して，希望があれば発表前に個別指導を行います。